

令和7年度

学島小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫
- ②ICTを効果的に活用した授業展開の工夫
- ③自主的に取り組もうとする「家庭学習」の習慣化

校長

片山 富造

学力向上推進員

吉田 和佳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いている児童は多い。 ●読書や日常生活の経験差から、語彙力が低く、文章を読み取る力や書く力が弱い児童がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、既習の学習や他教科と関連付けて考えることができる。 ・さまざまなジャンルの読書に親しみ、言語感覚を豊かにし、正しい言葉で文章を書いたり読み取ったりすることができる。	・漢字や計算、音読を継続的に指導し、小テストを定期的実施する。 ・文章を正確に読む力、語彙力、表現力を身につけさせるため、読書や新聞に親しませる機会を設ける。 ・感想や一言日記など短い文で書く活動を継続的に行う。	・読書に親しみ、素早く読むことになれたり、文章全体の構成や内容を捉えたりする経験を積み重ねる。そのために、毎週金曜日の朝学習を読書活動にする。また、月に2回、宿題を読書だけにし、じっくり読書に浸る時間を作る。(家庭読書の日)		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○根拠や理由を明確にしなが、自分の考えを発表しようとする児童は多い。 ●課題解決に向けて、自分の考えは表現できるようになってきたが、互いの意見を整理したり、比べたりすることは難しい児童もいる。	・文章や表、グラフなどから自分で情報を読み取り、整理したり考えを深めたりすることができる。 ・課題解決に向けて、根拠や理由を明確にしなが自分の意見を表現し、対話を通して、互いの意見を整理したり比べたりすることができる。	・分かったことや考えたことを思考ツールを活用してまとめ、設定した条件のもとに文章を書いたり、発表したりする活動を増やす。 ・ペアやグループ討論の場を設定し、話型を意識させながら、考えやその理由を問うたり述べたりするやりとりができるだけ長く続くように会話する機会を増やす。	・文章の推敲指導を取り入れ、修飾語についての理解を深める。 ・文章に、意図する部分に線を引かせながら読ませる。 ・児童同士で回答の意味や、根拠を問う場面を作り、お互いに学び合える授業づくりをする。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の課題や宿題など、与えられた課題に対してまじめに取り組むことのできる児童が多い。 ●自分の学習課題を把握し、計画的・効果的に家庭学習に取り組むことには課題がある。	・自分の学習状況や興味関心に合った課題を見つけ、計画的に学習することができる。 ・ノートや端末等、学習内容に応じたツールを活用して、自主的に学習に取り組む、個別最適な学びができる。	・各教科での課題設定や提示の工夫をして、何ができるようになるのか、どうやって課題解決をするのかを意識させて授業に向かわせる。 ・学校での学習で理解が不十分な所を児童がつかみ、その内容に対して、必要な学習の方法を伝える機会を作る。	・基本的な生活習慣(鉛筆削り・明日の準備・時間厳守・あいさつ・身の回りの整とんなど)の定着を重視し、主体的に学ぶ姿勢や集中力を高める。 ・自分の理解度や課題を捉えさせるため、振り返りやノート指導を重視し、主体的な学習態度を促す。 ・家庭との連携をとりながら、月に一度学習目標を立て、学力向上につなげる。		